

# 第5次 「自衛官・家族アンケート」報告



実施期間：2020年3月11日～7月3日

実施場所：横須賀・大和・綾瀬

横須賀のなかに、横浜市の一部(金沢区六浦東)が含まれる

2020.9.@

自衛官の人権問題を考える会

横須賀市本町3-14山本ビル2階 FAX046-825-0157

非核市民宣言運動・ヨコスカ気付

# 第5次「自衛官・家族アンケート」集計

## 主旨

「平和安全法制」国会審議の中で、「自衛官のリスク」は取り上げられても、自衛官・家族の声を聞こうという動きはほとんどありませんでした。戦地へ行かされるかもしれない自衛官・家族の意向を無視したまま「平和安全法制」は成立したといっても過言ではありません。

2020年2月2日には、法的根拠も曖昧なまま、閣議決定だけで護衛艦「たかなみ」が中東海域に向けて、横須賀を出港していきました。海外派遣の日常化が心配です。

専守防衛から集団的自衛権行使の自衛隊へ。今、自衛官・家族のみなさんが、どんな思いでいるのかを知るため、第5次の「自衛官・家族アンケート」を実施しました。

4次までは、「非核市民宣言運動ヨコスカ」と「ヨコスカ平和船団」による実施でしたが、第5次は、「たちかぜ」裁判支援以後も、神奈川県内で自衛官の人権問題に取り組むグループの共同行動として実施しました。

配布：2020年3月11日～3月13日

返信：2020年3月17日～7月3日

アンケート配布数 2001通(横須賀1321、大和440、綾瀬240)

返信到着数 10通

### (参考資料)これまでの配布数と返信数

	実施日	配布数	総返信数	有効返信数	有効返信率
第1次	2003.7	2500	21	12	0.0048%
第2次	2003.11	2250	15	7	0.0031%
第3次	2004.2	434	1	1	0.0023%
第4次	2015.8	1334	22	22	0.0165%
第5次	2020.3	2001	10	10	0.0050%

**配布方法:** 第1次、2次が自力ポスティング。第3次が出港予定自衛艦4隻の乗組員へのDM。  
第4次、5次が業者によるポスティング。

**有効返信数:** 第1次、第2次では、「アンケートのお願い」をそのまま封入した返信や、アンケートとは無関係のチラシを入れた返信が多くあった。それらを除いた返信を「有効返信数」として集計。

**コメント** 今回、返信は10通だったが、これまでの実績と比較してみても、特に少ないということではない。

## 返信内訳：自衛官本人6通、ご家族4通

### ●自衛官本人(陸自3名、海自3名。30代5名、40代1名)

	1	2	3	4	5	6
所属	海自	陸自	陸自	海自	陸自	海自
年齢	30代	30代	30代	30代	40代	30代
男女	男性	男性	男性	男性	男性	男性

### ●ご家族(30代2名、40代1名、不明1名)

	7	8	9	10
所属	陸自	?	陸自	海自
年齢	30代	?	40代	30代
男女	女性	?	女性	女性

### (参考資料)これまでの本人と家族の比率

	有効返信数	そのうち、家族からの返信	家族の比率	
第1次	12	0	0	家族用の回答を用意しなかったため
第2次	7	3	42.9%	
第3次	1	0	0	自衛艦居住の乗組員へのアンケート
第4次	22	9	41.0%	
第5次	10	4	40.0%	

#### コメント

家族用返信を用意していなかった第1次、第3次を除くと、いつもほぼ4割が家族からの返信。今回の家族から4通というのも、過去の実績と大きな違いはない。

## 質問と集計

(注) 問1から問3は、自衛官本人のみの回答、問4、問5は家族も含めての回答

### 問1) あなたの入隊動機はなんですか (複数回答あり)

1・国土防衛	●	1名
2・国民を守る	●●●	3名
3・やりがいを求めて	●●●	3名
4・国際協力		0名
5・災害救援	●●	2名
6・その他(護衛艦の艦長になる)	●	1名

コメント

多かった回答は「国民を守る」と「やりがいを求めて」が同数だった。  
次に多かったのは「災害援助」。  
「やりがいを求めて」は、すべて単独回答。

### 問2) 自衛官として、あなたがやりがいを感じる時はどんなときですか (自由記入)

職務・任務をやり遂げた時	●●	2名
国民から感謝された時	●	1名
民間から励ましを受けた時	●	1名
国民の役に立ったと感じた時	●●	2名
能力が仕事の役にたった時	●	1名

コメント

国民からの感謝と、自己実現が「やりがい」の2大要素なのか。  
「国家のため」という表現がなかったことに注目したい。

### 問3) 2016年3月に施行された「平和安全法制」以後、仕事にどのような変化がありますか (自由記入)

特に大きな変化はない	●●●●	4名
外国との訓練が増えた	●	1名

コメント

「特に変化はない」と答えた自衛官は、意見欄に「昨今の人口減少の影響もあり、年々入隊者が減少し、組織の体制維持に影響が出ている。人員が減っても任務や役割はむしろ増加傾向にあり、隊員の負担が大きくなっている」と記入している。負担の増加があっても、「特に変化はない」とする点に、問題の「慢性化」が現れている。

問4) あなたが考える、自衛隊任務のあるべき姿はなんですか ●自衛官、●家族

- 1・専守防衛に徹する自衛隊 ●●●●●●● 3+2=5名
- 2・日米同盟強化の自衛隊 0名
- 3・国防軍化をめざす自衛隊 0名
- 4・災害救助活動を中心とした自衛隊 ●●● 1+2=3名
- 5・その他(他国と同様の軍隊) ● 1名

**コメント** 「専守防衛に徹する自衛隊」と答えた自衛官が多かった。家族は、「専守防衛に徹する自衛隊」と「災害救助活動を中心」が半々だった。「日米同盟強化」、「国防軍化をめざす」はゼロだった。

問5) 憲法9条の平和主義が、自衛官の命を守っていると思いますか

- 1・思う ●●●●● 2+3=5名
- 2・どちらかと言えば思う ●● 2名
- 3・どちらかといえば思わない 0名
- 4・思わない ●● 2名
- 5・どちらともいえない(あるいは「わからない」) 0名

**コメント** 10通中、7通が「思う」、「どちらかと言えば思う」と多数だった。過去のアンケートと比較して、「思う」、「どちらかと言えば思う」が増えていることが今回の大きな特徴ではないか。

(参考資料)「9条が自衛官の命を守っていると思うか」の答えの推移

		●自衛官、●家族
第2次	①考えたことはない ●● ②考えたことはある ●● ③言われれば、そうかもしれない ●● ④守る必要はない ●	第3次 ①考えたことはない ●
第4次	①考えたことはない ●●●●●●●●●●●●●●●● ②考えたことはある ●●●●●●●● ③言われれば、そうかもしれない ●●	

**コメント** 「9条が自衛官の命を守っていると思うか」は、第2次以降継続して聞いてきた問。22名からの返信があった2015年では、半数の11通が「考えたことはない」だったが、今回、「思わない(考えたことはない)」は2通だった。

## 問6) このアンケートに関してご意見があれば、ご自由にご記入ください

### 自衛官本人

- 昨今の人口減少の影響もあり、年々入隊者が減少し、組織の体制維持に影響が出ている。人員が減っても任務や役割はむしろ増加傾向にあり、隊員の負担が大きくなっている。
- 私は「自衛官が不要ない!」って言っている方がいるならば、自衛官よりも警察官が不要と考えます。でも、警察官が不要という方はいません。我々の個人は、法治国家の警察が守ってくれます。しかし、国と国の間には警察官はいません。米国も警察ではないです。故に自国の安全は自分たちで守らないと平和は訪れないのです。永世中立のスイスを見ても、国民が武装しています。平和ボケしている国は日本だけです。軍隊(自衛隊)を持ちたくないなら、国を捨てて、中国か米国の属国になるしかありません。最後にひとつ言いたいことは、自衛官は個人で戦争したくはないのは事実です。でも国民を守るためには死ねます。
- 退官したOB(将官クラス)たちが、日本会議系の講演会で公演をしたり、改憲活動にいそしんでおり危険な気がします。

### 家族

- アンケート結果について、どこで公表されるのか(HPなど)あれば、いいと思います。危険な業務が増えていかないかどうか、とても気になりますし、心配です。
- 最近の情勢を見ると、危険な場所に行く可能性はある。PKOの派遣も、真実がどうだったのか分からない。もし行くことになったら自衛官はやめてほしい。人手不足で、日々激務なこともあまり報道では語られません。うつ、自殺はなぜ報道されないか。この気質は怖い。
- コロナの中でも転勤が普通に行われていたのには驚きました。

### コメント

自由記入は、自衛官本人3通、家族3通の計6通だった  
多くは、自衛隊が抱えている今日的な問題に関しての「懸念の表明」というべき内容。  
特に、家族のコメントは、切実さがにじみ出ているように思う。  
「自国の安全は自分たちで守らないと平和は訪れない」と書く自衛官の  
「自衛官は個人で戦争したくはない。でも国民を守るためには死ねます」との表現も、  
自衛隊の行動が、そこまで突き進んでしまっていることの反映のように読める。



## 集計を終えて

- ① 今回の10通の返信を集計するにあたって、返信数の少なさを考慮して、パーセンテージでの比較はひかえることにした。統計的に考えて、アンケートとして成立しているとはいいがたく、数値が一人歩きすることを防ぐために、そのような判断となった。
- ② それでも、少ないとはいえ、まぎれもなく自衛官・家族の生の声であることはたしかなことなので、そこに示されているメッセージは、真摯に受け止めなければならぬと思う。
- ③ 家族からもアンケートの公表を求める声があつて、結果の公表に至った。
- ④ 個々の回答から、私たちが受け取ったものは、第1に、国家より国民という視点に重きを置いた回答が多かったということ(問1、問2の回答)。
- ⑤ 第2には、自衛隊任務のあるべき姿を、「専守防衛に徹する」と答えた自衛官・家族が多かったこと。「災害救援活動を中心」とする回答を含めると、今日の自衛隊の姿との違いは大きく、大規模な自衛官・家族アンケート調査が必要とされている。
- ⑥ 第3は、「9条が自衛官を守っている」と考える自衛官・家族が、これまでのアンケートと比較しても多くなったということ。とくに家族の返信はすべて「思う」だった。
- ⑦ 自由記入欄への記入は6通。家族のコメントには「不安」があふれているように思える。自衛隊の「実態」が伝わっていないことの指摘もあった。アンケート結果の公表が、指摘への答えのひとつになればと思う。
- ⑧ 今回の返信数をみて、あらためて2015年の第4次アンケートの返信数の「多さ」が気になる。安保関連法成立直後のアンケートだったが、安保関連法の成立が、自衛官・家族にとっても極めて重大な事柄だったことが、返信の多さから読みとれるのではないか。